徳泉寺報（とくせんじほう）

No.６８

発行
令和５年６月

発行元 徳 泉 寺
仙台市宮城野区
榴岡 3-10-3
(022)297-4248
tokusenji.sendai@gmail.com

ホームページ
tokusenji-sendai.com

Instagram
tokusenji.sendai

TOKUSENJI.SENDAI

丸ごとの命をその場所で生きる

ご報告

榴岡地域　包括圏域会議

「認知症　あってもなくても暮らしやすい地域」

去る五月三十一日（水）徳泉寺本堂を会場として、榴岡地区包括支援センターが主催する包括圏域会議が行われました。榴岡地域の各町内会長さん、民生委員さん、児童委員さん等々地域をお守りくださっている方々が集まり、認知症に関する知識を深め、地域の中でどのようなことができるのか、どのような地域であったらいいのかを考えました。講師には認知症に詳しい「脳と心の石原クリニック」の石原哲郎先生をお迎えし、包括センターの職員との対談形式で認知症のこと、介護のこと、ご本人の不安、家族の悩みなどについて最新の情報から心理的な支えまで細やかに話していただきました。

年を重ねれば誰しも認知機能に変化が訪れます。その変化をどう受け止めるのか。認知症と取り巻く人々の話は遠いどこかの話ではなくて、明日の私の話です。実際、徳泉寺でも先々代住職夫妻を自宅で看取りましたし、お寺を訪ねてくださるご門徒さんにもご家族の介護をされている方や、ご自分の健康についての話を聞かせてくださる方が多くあります。認知機能が衰えれば、本人は不安だし、家族は心配だし、ついつい隠して平穏を装いたくなります。でも、本当は周りの人たちに状況をオープンにできたなら。みんなでそのことを共有しあい支え合って、最期の時まで今いるその場所で生活できたなら。地域の環境がそのことを受けとめる土壌であったなら。ご本人にとっても家族にとっても不安が大きく軽減されるのではないでしょうか。

では、そのためにどうしたらいいのか。石原先生はいくつか印象的なお話しをされました。

１　認知症について知ろう。病院へ行こう。

一口で認知症と言っても１００種類以上あります。なんだか変だな？と思ったら直ぐに病院へ。最初の診断があればその後の変化が判断できます。また正しい知識があれば、偏見を持たずに接することができます。

２　できるだけ環境を変えないで安心して暮らせる方法を探ろう。

新しいことから忘れてしまうのが認知症です。例えば、ガスコンロが危ないからとＩＨに変えてしまうと、もう料理ができなくなる、ということもあります。それよりは、最高級の安全装置がきちんとついた同じ形のガスコンロの方がその人の生活を守ることができます。

３　家に家族以外が出入りできる状態を作っておこう。

健康で若い頃から他の人が出入りできる家にしておくことが、認知症を発症した方やご家族を守ることになります。周りの方と互いに訪れやすい関係作りができるといいですね。

「開いて守る」ということがありますが、地域の中で生きるというのは正に自分を開示して周囲に守ってもらうということもあるのだ、と感じました。

最後に先生とお話ししたところ「自分のお寺がある人は精神的な拠り所がある。これは大変心強いことです。うらやましい。」とおっしゃいました。ご門徒さんのためにそして地域の中にある場所として、お寺の役割を見つめる機会をいただきました。